

冬期における給湯機器の故障予防対策等について

1. 凍結予防対策（寒波到来時）

（1）電源プラグがコンセントに差し込まれていることの確認

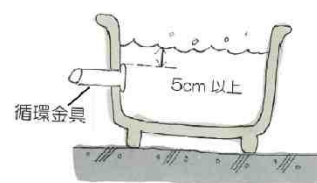
給湯機器には、外気温の低下を感知すると自動的に作動する機器本体の「①凍結予防ヒーター」と、機器本体と浴槽間の配管を水で満たし凍結を予防する「②自動ポンプ運転装置（追焚き機能付きのみ）」が備え付けられていますので、旅行などの不在時にコンセントを抜かないでください。



（2）浴槽への一定量の水はり（「追焚き機能付き給湯機器」のみ）

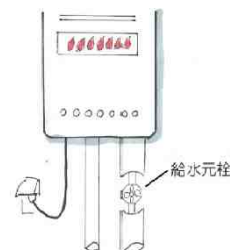
自動ポンプ運転装置は、配管内を水で満たし、浴槽と給湯機器を循環させることにより配管の凍結を予防します。特に戸建住宅において、屋外に配管が露出し、保温が不十分な箇所がある場合に有効です。

リモコンの電源を切っても作動しますが、事前準備として、浴槽内の循環金具の上5cm以上、水（残り湯も可）で満たしてください。



（3）給水元栓の保温

給水元栓とは、給湯機器への給水の元栓（バルブ）です。通常、給水元栓には保温措置がなされていますが、屋外設置で保温措置がなされていない場合には、設備工事業者に当該作業を依頼するか、緊急的な措置として、タオルを巻きつけ、上から防水のためのビニールでカバーをしてください。



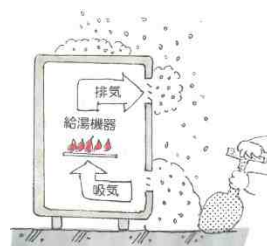
2. 凍結した場合の対応

万一、配管（給水元栓含む）が凍結した場合には、自然解凍をお待ちください。熱湯をかけると、温度差により機器や配管が破損する恐れがありますので、お止めください。



3. 積雪した場合の対応

不完全燃焼や異常着火を防ぐため、給湯機器の給気・排気口の除雪をおこなってください。



4. その他の異常に気づいたときの対応

(1) リモコンの異常

給湯機器は、故障を検知するとリモコン画面に故障表示（数字）が点滅します。故障表示が確認された場合は、メーカー又はガス会社窓口等にお問合せ下さい。

【メーカー共通の故障表示の例】

1 1 1（点火不良）

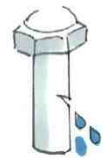
(2) 外観の異常

排気部周辺への煤（すす）の付着や配管部の水漏れなど、故障の前兆となる異常が確認された場合は、メーカー又はガス会社窓口等にお問合せ下さい。

煤（すす）の付着



水漏れ



(3) 使用中の異音

使用中に異音（異常な高音など）がする場合は、リモコンの故障表示をまずご確認ください。故障表示が確認された場合は、メーカー又はガス会社窓口等にお問合せ下さい。なお、正常時もファンやポンプ等の作動音が発生しますので、詳細は取扱説明書をご確認ください。